



こどもの権利擁護に関する研究 II ～こどもアドボカシーの 実現に向けて～



藤田美枝子＊、1)、村瀬 修2)、名倉恒夫2)、田光江美子2)、中村康江2)

1) 聖隷クリストファー大学、2) 浜松市児童家庭支援センター

背景

「子どもの権利条約」の第12条の理念を踏まえ、児童福祉法第2条においては、こどもの年齢及び発達に応じて、その意見が尊重され、その最善の利益が優先して考慮される旨が規定されている。その趣旨を実現するためには、こどもが意見表明する機会を確保するとともに、こどもの意見表明を支援する仕組みが必要である。このため、2022年の改正児童福祉法においては、社会的養護に関わるこどもの養育環境を左右する重大な決定の際の意見聴取等措置義務の導入に加え、「意見表明等支援事業」（こどもアドボカシー）が法定化された。

目的

1. こどもアドボカシーの先進事例の訪問調査により実践を具体的に明らかにする。
2. こどもアドボカシーについての理解を深めるための講演会を開催する。（社会福祉学研究科と共催）
3. 1での実践例や文献研究等から、浜松市における今後の課題を明らかにする。

方法

- こどもアドボカシーおよびその担い手であるアドボケイトを取り入れている先進的な自治体や団体を訪問・視察し、意見表明等支援事業の実践を学ぶ
 - 学校におけるこどもアドボカシーを実践する団体から学ぶため講演会を開催する
- 以上から、浜松市における取組みを考える

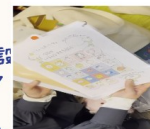
結果

1. 講演会「学校におけるこどもの意見表明の機会を考えよう」

- ・ 月日: 2024年12月7日(土) / 参加者: 約80名 (ハイブリッド形式) / 講師: 藤本雅衣子さん(認定NPO法人カタリバ)
 - ・ 内容: 学校における「ルールメイキング」
- 2023年4月に施行されたこども基本法に基づき、同年12月に「こども大綱」が閣議決定され、こども施策は子どもの権利条約に基づいた大きな転回点を迎えている。特に「学校」において、こどもの意見表明権を大切にする取り組みは、今後どのように行われるのか？その一つの実践がルールメイキングである。
- ・ 校則見直しにおける全国的な動きが起こっている。こども大綱で取り組んでほしいことについて、小学生・中学生の1位(全体の2位)は「学校教育の内容や規則の見直し」であった。(2023年9月「こども1万人意識調査報告書」日本財団調査)
 - ・ カタリバでは、全国の小中高等学校において生徒が中心となり校則やルールを見直していく活動を支援している。「校則・ルールが変わる」という結果だけではなく、立場や意見の異なる教師と生徒との対話を通じて納得解をつくるプロセスを大切にする。生徒は身の回りの課題に気づき、当事者意識を持って行動する力や、社会参画意識を高めていく。

2. 子どもアドボカシーセンターわかやま(一社toddleわかやま)訪問調査

- ・ 月日: 2025年1月16日(木) / 場所: 子どもアドボカシーセンターわかやま
- ・ 内容: タドルわかやまがこれまで、CAP等のこどもの人権擁護活動を自前で行ってきたことから、施設入所中のこどもたちへの人権教育が行われ、こどもの権利理解の下地ができていたところに「こどもアドボカシー」が導入されたため、浸透・定着が比較的スムーズに進んだことが明らかになった。訪問形態はアドボケイトの要請があったら訪問するという要請応答型からスタートし、2023年度からは県の委託事業として一時保護された全てのこどもへの訪問を行い、アドボケイトがこどもの気持ち確認カード等(上写真)を使って訪問を実施している。アドボケイト登録は24名(弁護士等も含む)。



3. 江戸川区子ども家庭総合支援センター(児童相談所)一時保護所 訪問調査



- ・ 月日: 2025年3月22日(土) / 場所: 江戸川区児童相談所一時保護所(左写真・上階は児童相談所)
- ・ 実施主体: 一般社団法人子どもの声からはじめよう
- ・ 内容: 江戸川区の人口約70万人。2020年児童相談所開設。相談件数約4千件(うち児童虐待2千件)。一時保護所定員35名(2023年度 入所 225名) 先駆的に2021年からアドボケイトが一時保護所で活動。当初は職員の戸惑いが見られ「一保の情報が外部に知られてしまうのではないか」という不安の声があった。現在は「アドボカシーの視点は大切」「こども理解のためにはアドボケイトが必要である」「職員に伝えづらいことを聴いてもらっている」という考え方になった。理解が進むためには2年を要した。

全体的活動状況はデータにして児相、区担当者、アドボケイトコーディネーターが共有し、毎週三者の話し合いの場が持たれている。2023年度一時保護所で225人のこどもとアドボケイトが面談を行った。アドボケイト登録は40名である。

課題



浜松市では、2025年度から意見表明等支援事業への取り組みが開始される。独立アドボカシーとしてこどもの気持ちを聴くことのできるアドボケイトの育成が求められる。まずは、社会的養護の領域からスタートするが、こどもアドボカシーの視点が学校や社会全般へ広がることが必要で、そのためには大人が「こどもの声を聴いていこう」という意識を持つこと、こどもの権利について理解することが重要と考える。